

エクストリームシリーズ 2021 那珂川大会

■優勝チーム コメント

『振り向くなよ 君は美しいよ』

小山 賢さん

「振り向くなよ 君は美しいよ」は 2013 年の那珂川大会に初めて出場しました。面白そう！何とかなるさと思い、メンバーを集めて参加しました。MTB を担ぐなんて思ってもいなく、ヘロヘロになりながら急斜面を登り、当時、地図読みのスキルはゼロで、夜の山で迷い、地図やライトも落としたりして、結局 23 時過ぎにゴールしました。散々な結果ではありましたが、私はアドベンチャーレースの楽しさに取りつかれ、そこから毎年参加し、今年で 9 回目になります。

ここ数年は完全完走出来てなく、運動不足もあるので、今年の目標は「怪我なく完全完走」でした。

レースは、序盤から順調で CP7 時点で 4 位だったと思います。CP7 以降は 2 位のチームと抜きつ抜かれつの展開で CP12 は同時にカードを入れたと思います。最後 CP13 カードを入れる際に箱が空だったので、1 位であることを認識し、興奮しながら最後の急坂を駆け下りゴールしました。

過去の最高位は 3 位で、今年こそはと毎年思いながら参加していましたが、やっと達成できた初優勝。記憶に残る大会になりました。

大会スタッフ、大木須の皆様、レース参加者、とても楽しい大会をありがとうございました。また来年もよろしく願いいたします。

魚住 亮さん

はじめに、私はこの大会を一年の始まりのイベントとして考えており、運営、地域、選手が一体となって盛り上げ、楽しむ感じが本当に好きで、毎年楽しみにしております。

そんな大会に参加させてもらうこと 7 年、今回ようやく優勝することができましたので、例年に増して記憶に残る大会となりました。

今回は初参加のメンバーを交えてのレースとなり、どうなることやらとも思いましたが、自然にお互いを補い合いながら、そして何より、全員が終始楽しみながらレースができたことが本当に良かったです。

今大会で個人的に良くできた点として、役割分担と、適切な頻度での正確な確認があったと思います。リーダーにメインのナビを任せられたおかげで、私は補佐に徹し、ルートの確認に集中できました。結果、選択ルートの確度を上げたり、修正に貢献できたと思います。ミスをしないように考えるより、ミスはするものと考えてリスクヘッジできたのは、日常にも活かせる良い学びとなりました。一方で、反省点としては、バイクの整備不良でクランクが外れたり、シフトチェンジ不良があったり、また身体の方の整備不良で前回から 4kg 以上も太ってしまい、ランやバイクの登りでチームの足を引っ張ってしまいました。本当にギリギリのところだったので、

バイクも身体もゴールまでもって来てよかったです。

最後に、このような環境下で、事前準備や、当日の運営をしていただいたエクストレモやボランティアの皆様、そして今年も我々を暖かく迎え入れてくださった地元の皆様、さらには一緒にレースを盛り上げたレーサーの皆様に本当に感謝いたします。おかげさまで、今年も楽しく、そして十分な感染対策の元、安心して参加できました。

来年はマスク無しの笑顔が会場に溢れることを楽しみにしています。またお会いしましょう！

飯尾 圭市さん

主戦場はロードのマラソン。山の経験というと、トレランの大会に 3 度ほど出たことがある程度で、MTB を担いで山に入ったこともなければ、山を MTB で疾走したこともありません。カヤックも人生初乗り！ 前日ネットで磁北線の意味を知る、ザ・ビギナーな私。

誘っていただいたメンバーからは、「めちゃくちゃ楽しいです！」といわれる一方で「一番大事なものは折れない心です」といわれており、楽しみな反面、それ以上の不安が正直ありました。

が、しかし、スタート後は不安を感じる暇なんてない。ただただついていくのに必死。MTB で山を下る時には、「ブレーキ緩めましょう！」の檄が飛び、近年感じたことのないスリルを序盤から味わうことになりました。

気持ちが落ち着いてきたのはカヤックのあたりから。仲間のアドバイスのおかげで思っていた以上にカヤックを操ることができ、段々と気持ちが高ぶってきました。その後のトレッキング、自転車の峠越えでは、つらさはあるものの、景色を楽しむ余裕が出てきました。

後半のナイトトレッキングでは、真っ暗闇を想像していましたが、3 人分のライトで周囲を照らされていると、高低差や藪の様子はわかる感じでした。メンバーのナビのおかげで夜のトレッキングも楽しみながらクリアできました。しかしながら最後の CP からゴールまでの間は本気のスピードアップについていけず、コケまくりながら転げ落ちるように下山（笑）。ゴールの瞬間は、安堵感、充実感の入り混じった何とも言えない気分。マラソンのゴールとは一味違う感じでした。さらにメンバーの冴えまくった地図読みのおかげでトップでゴールという自分の中で想定外の結果となり、何も言うことはありません。

自分にできることは心折れずに前向きについていくことくらいなもので、チーム貢献という点では、いかにマイナス要因を出さないかに集中していました。自分はチームメンバーの 1 人なのですが、やはり過去の苦しんだ経験がないので、正直、ほかのメンバー 2 人に対して「おめでとう！」と、優勝を称えたいような気持ちになっていました。

レース全体を振り返ると、とても楽しかった！ 山河の雄大な景色、アドベンチャーならではのスリリング！？ な体験、山歩きを通じての自然との対峙、チームメンバーからのスパルタ・・・も、もとい愛のある声掛け。全てが新鮮で刺激的でした。

コロナ禍で様々な配慮が必要な中場所を提供してくれた現地の皆様、開催に向け入念な準備をされてきたスタッフの皆様、地図読みに集中する傍らでレース中にも気を遣っていたチームメンバーがいて今回の貴重な体験ができました。本当にありがとうございました。